フマキラー株式会社

2023年3月期 第2四半期
決算説明資料

日用品質

2022年12月8日

日用品質
フマキラー®

目次

Ⅰ．決算概要

Ⅱ．通期予想と今後の展開

Ⅲ．補足資料

Ⅰ．決算概要
（2023年3月期第2四半期）

日用品質 フマキラー

決算概要－連結売上・利益

- イタリア子会社の新規連結、円安により海外が大幅に伸長
- 役員退職慰労金の計上などにより、純利益は前年同期比半減

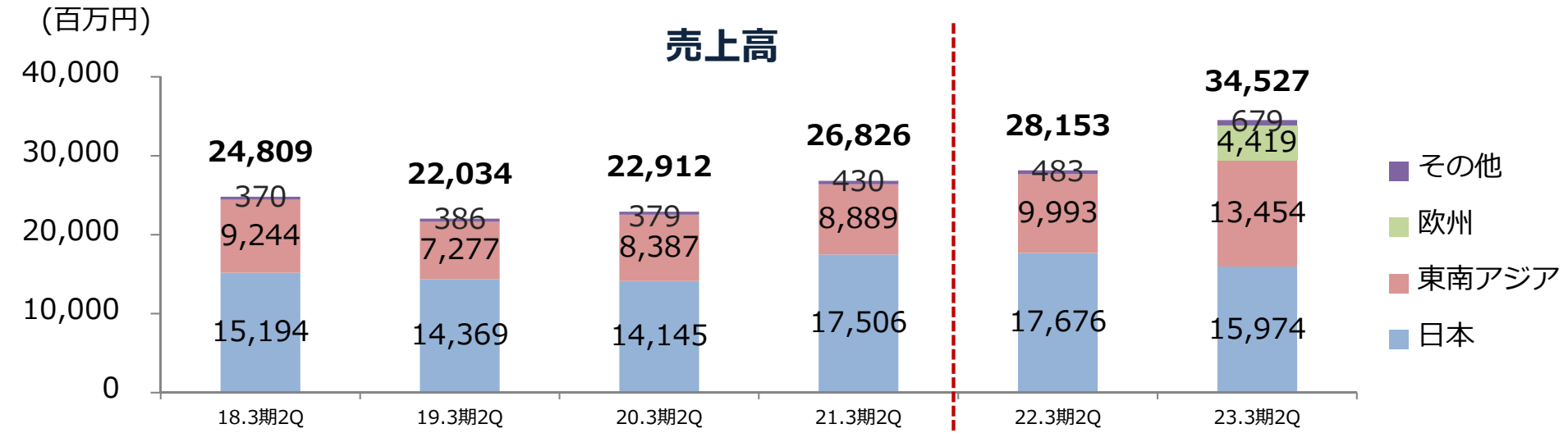
	22.3月期2Q 実績		23.3月期2Q 期初計画		23.3月期2Q 実績			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比(%)	計画比 (%)
売上高	28,153	100.0	30,900	100.0	34,527	100.0	122.6	111.7
売上総利益	8,479	30.1	9,000	29.1	10,349	30.0	122.1	115.0
営業利益	1,628	5.8	1,400	4.5	1,530	4.4	94.0	109.3
経常利益	1,783	6.3	1,530	5.0	1,742	5.0	97.7	113.9
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,201	4.3	830	2.7	583	1.7	48.5	70.2
1株当り利益	72.92円		50.36円		35.38円			

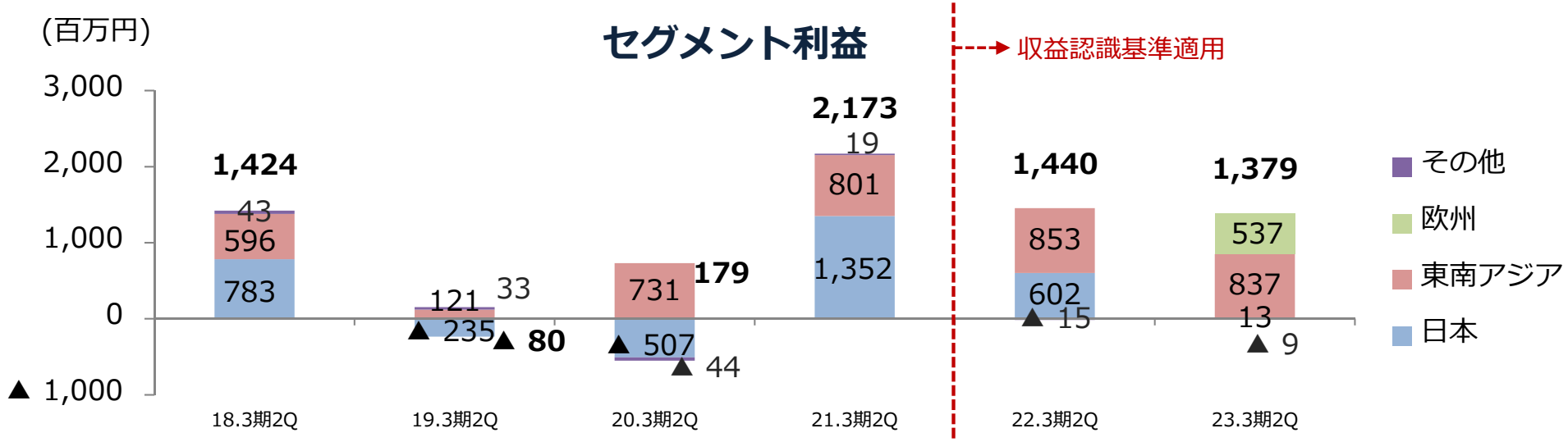
※22.3期末にFSブルーム株式会社のフラワー事業の事業譲受に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2Qの各数値においては、暫定的な会計処理の確定した内容を反映しております

日用品質 フマキラー

決算概要－セグメント情報

- 日本は、天候の影響を受け殺虫剤が減収
- 欧州は、イタリア子会社の新規連結。東南アジアは、大幅増収も費用増で利益は横ばい



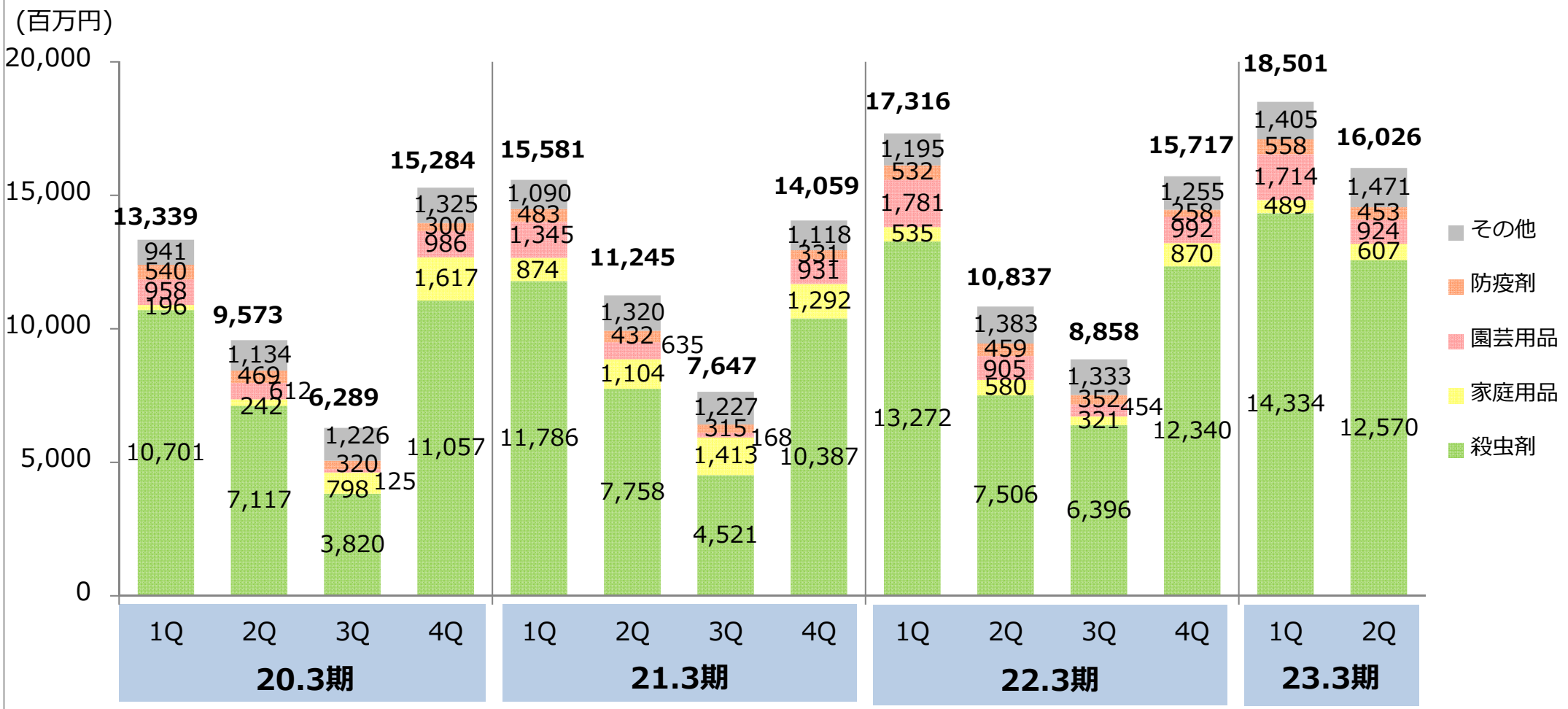


※欧州セグメントは、22.3期以前はその他に含みます

日用品質 フマキラー

決算概要－商品ジャンル別売上

- 殺虫剤は、国内の不振を海外でカバー
- 家庭用品・園芸用品は、新生活様式は定着し高水準も需要拡大は一巡し前期並み
- 防疫剤・その他は好調を持続

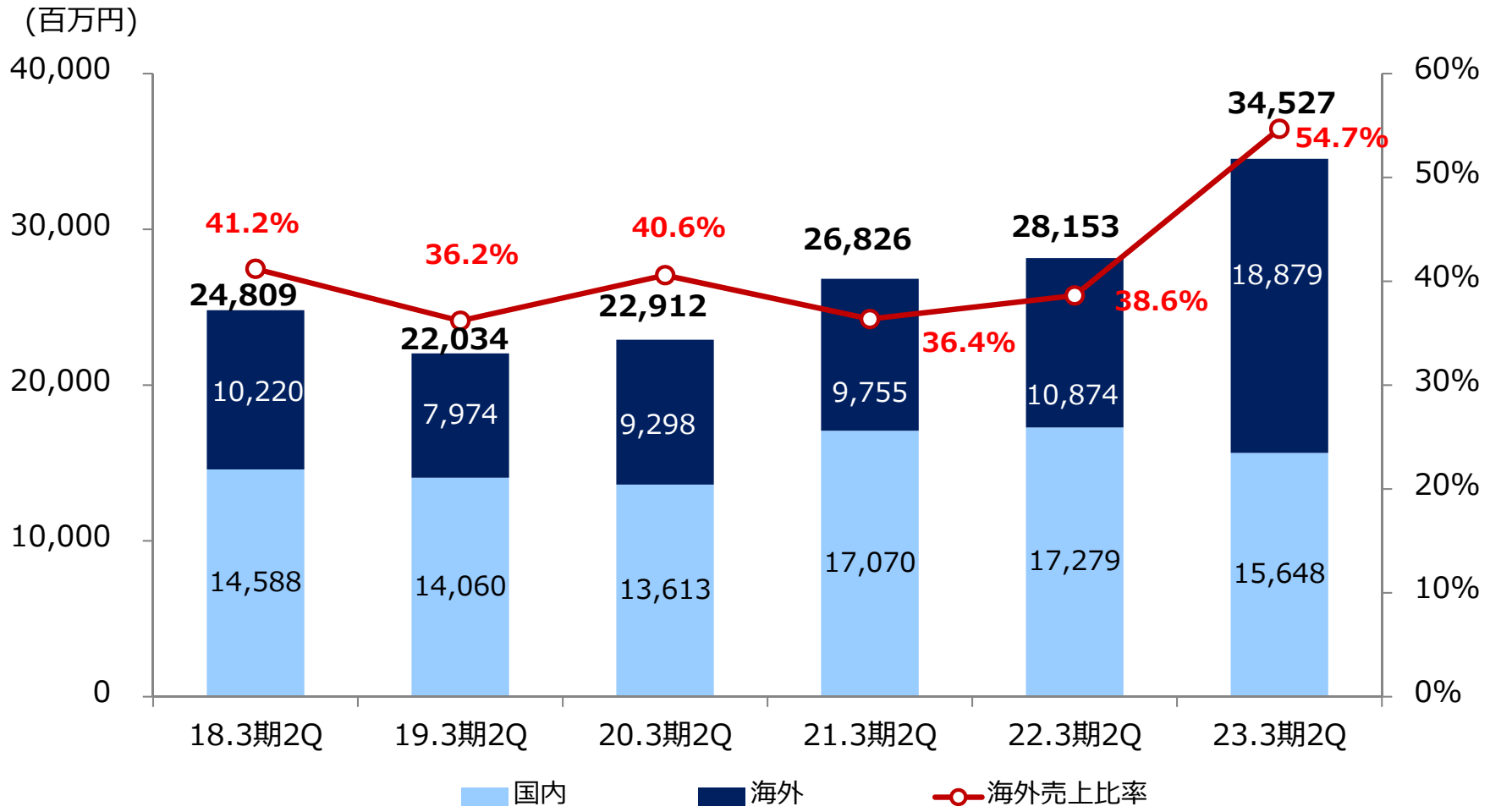


※22.3期以降は収益認識基準適用

日用品質 フマキラー

決算概要－国内/海外売上高

- 国内は、殺虫剤の落ち込みが影響
- 海外は、東南アジアの現地通貨ベースでの増収に加え円安効果、イタリア子会社の新規連結で拡大。売上高に占める海外比率は54.7%と上昇



※22.3期以降は収益認識基準適用

日用品質 フマキラー

決算概要－為替の影響

- 為替による業績への影響は、売上高で+2,722百万円、営業利益で▲10百万円

為替変動による売上・利益増減額

(百万円)

	売上高	営業利益	備考（営業利益）
フマキラー	+58	▲181	海外売上▲187、海外仕入+6
海外子会社	+2,664	+172	インドネシア（2社）+111、アジア+63 インド▲2、メキシコ+0、イタリア0
合計	+2,722	▲10	

期末レート

期末	21年6月	22年6月	22年12月計画
円/100ルピア	0.76	0.92	0.95
円/リンギット	26.64	31.05	31.38
円/ルピー	1.49	1.78	1.80
円/ペソ	5.58	6.78	7.48

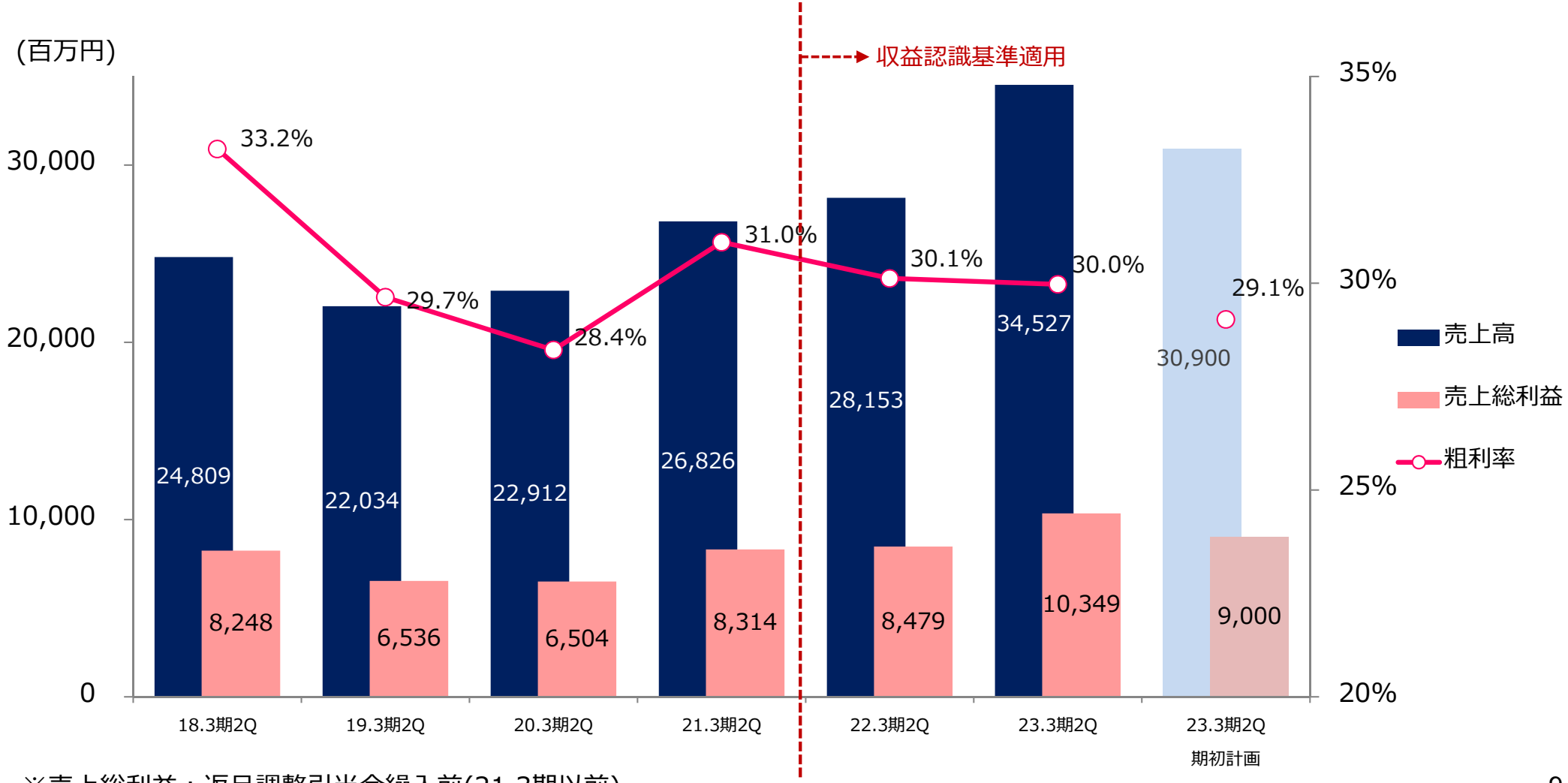
期中平均レート

期中平均	21年4-9月	22年4-9月	22年4月-23年3月計画
円/ドル	109.9	133.04	148.28
円/ユーロ	132.0	136.52	147.60

日用品質 フマキラー

決算概要－売上総利益（粗利率）

- 売上総利益率は前年同期比0.1pt 低下。計画比では0.9pt改善
- 原材料価格に関しては、国内・海外共に高騰が続き原価率を押し上げる

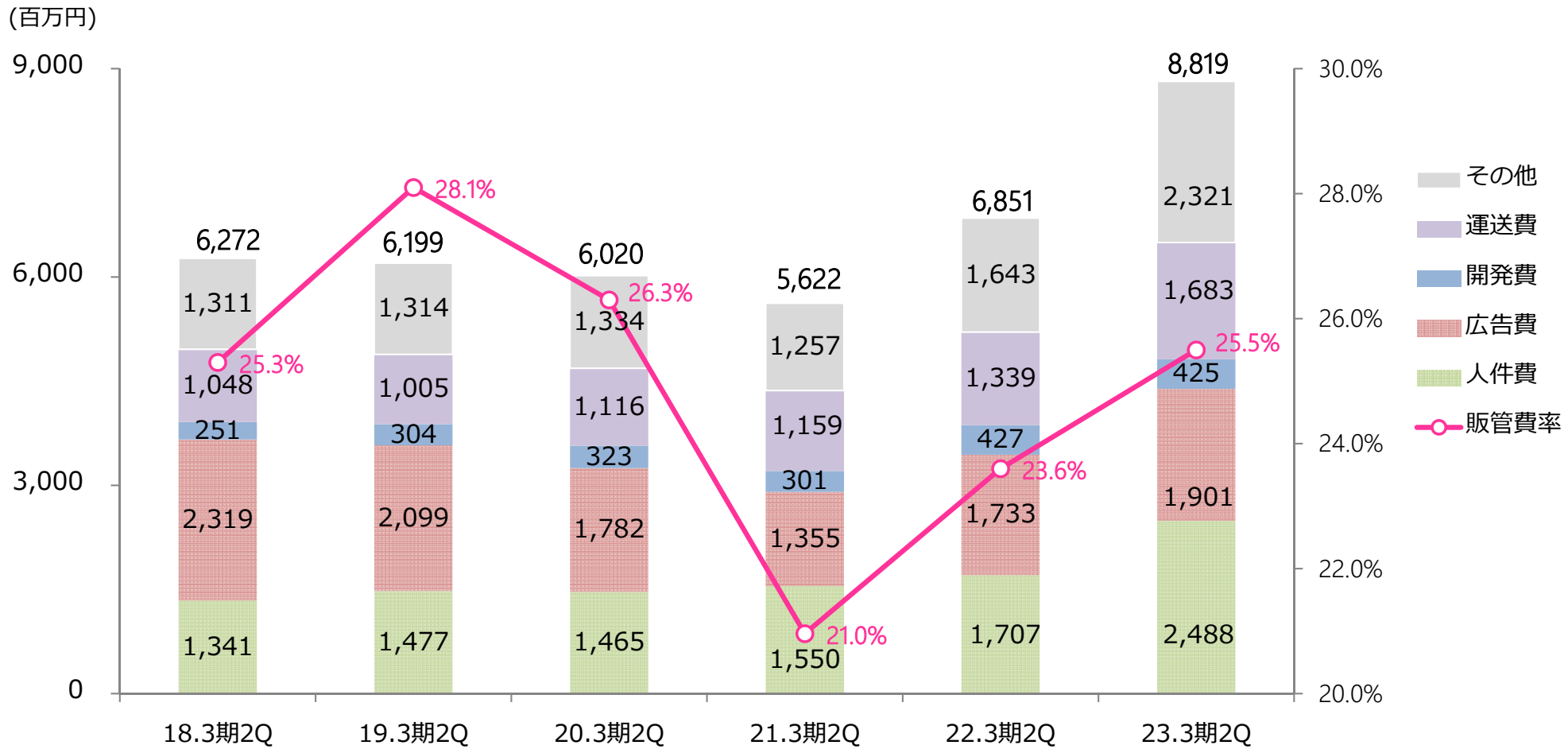


※売上総利益：返品調整引当金繰入前(21.3期以前)

日用品質 フマキラー

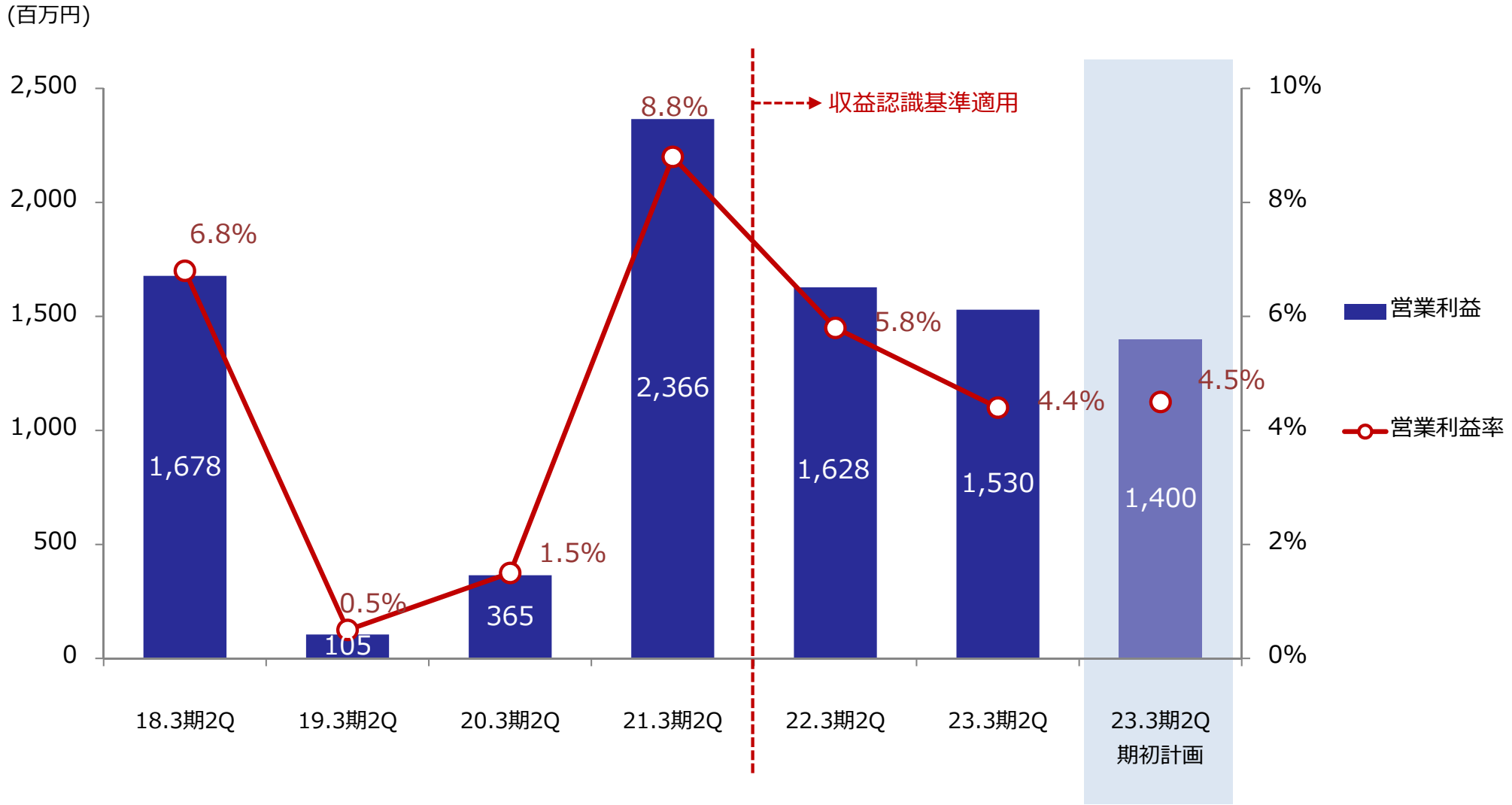
決算概要―販管費

- 新規連結会社の増加に伴い経費はいずれも増加
- 売上増もあり運送コストが大幅増



日用品質
フマキラー

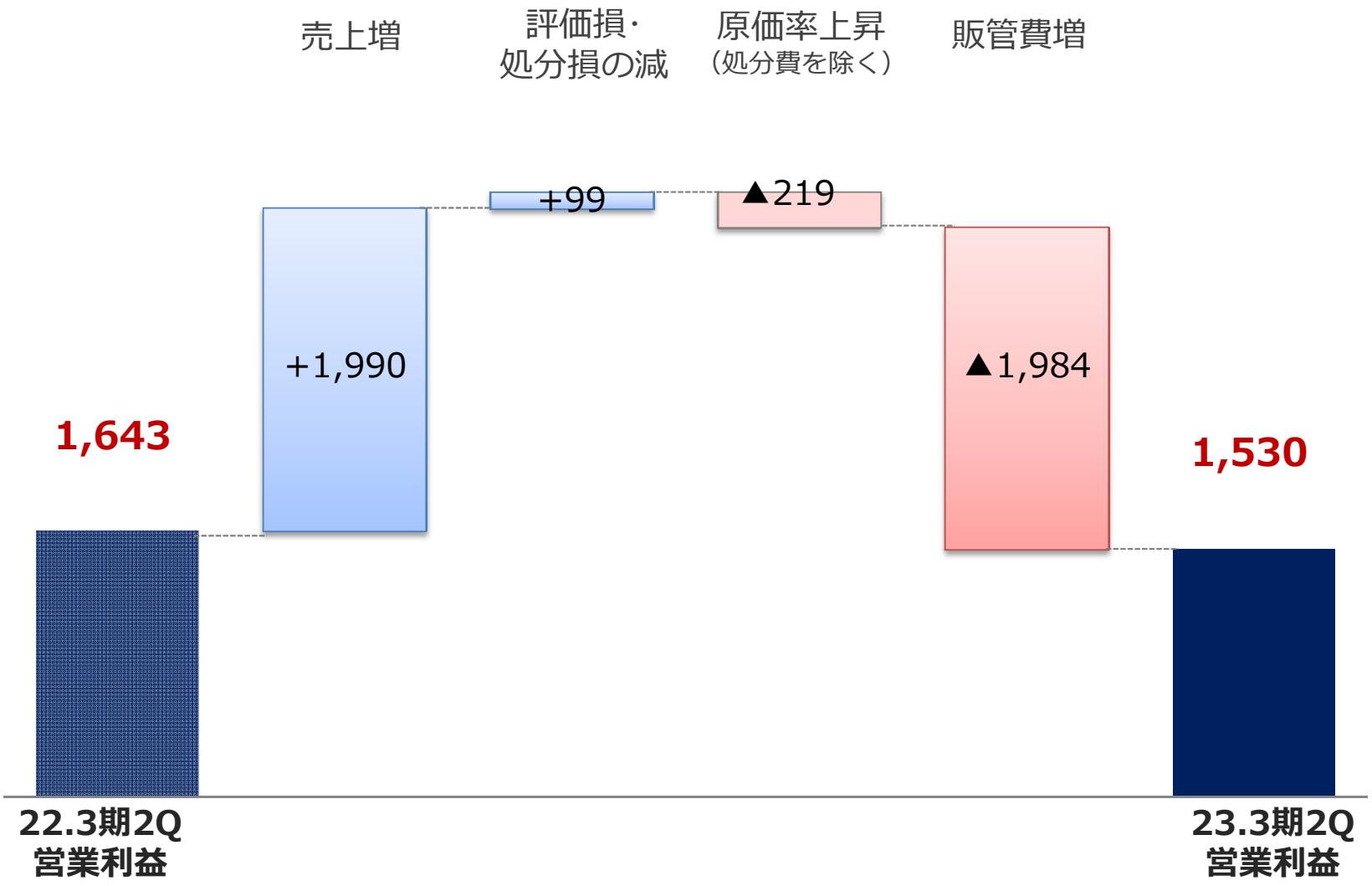
決算概要―営業利益



日用品質 フマキラー

決算概要―営業利益増減要因

前年同期比
▲114百万円



日用品質
フマキラー

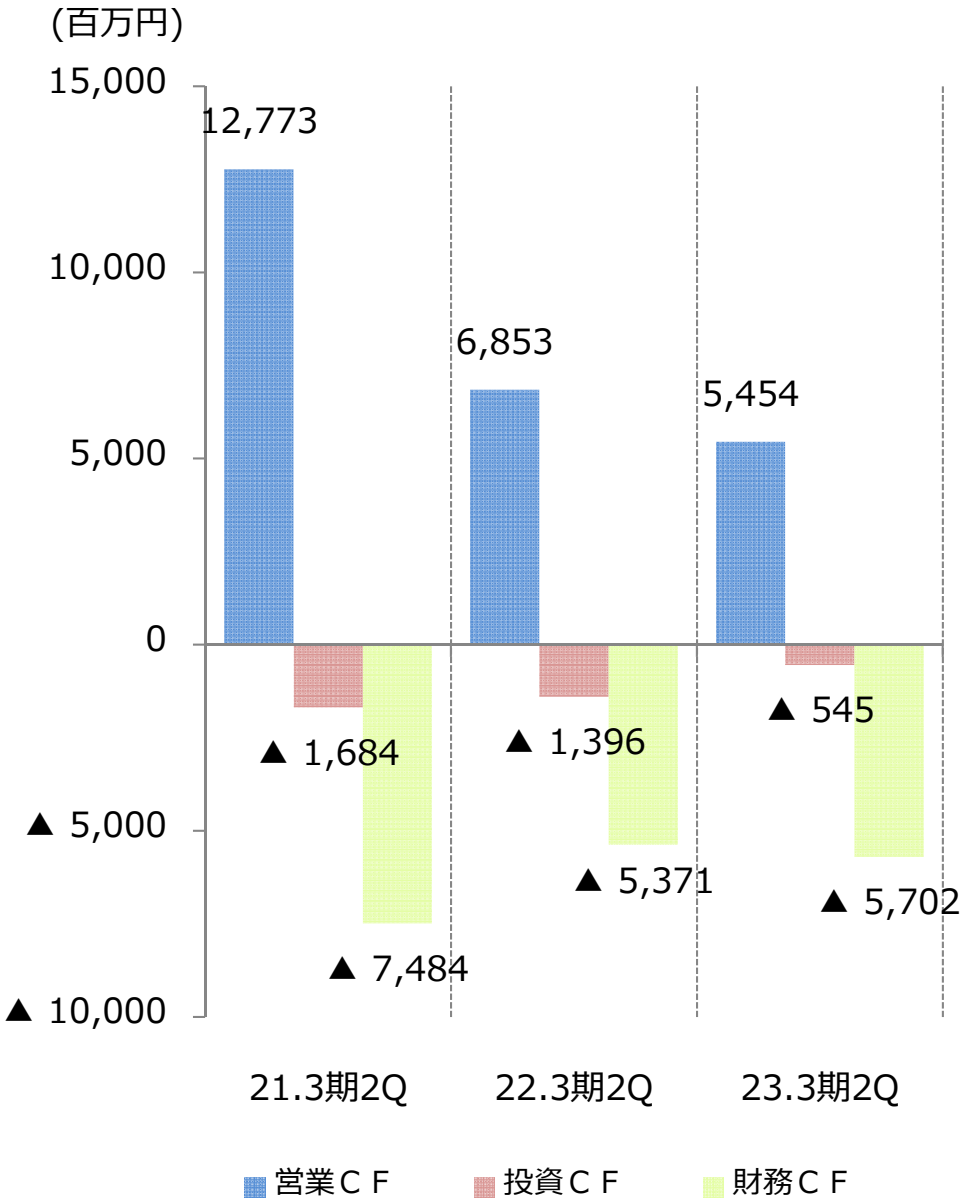
決算概要－貸借対照表

(単位：百万円)

	22.3期2Q末	23.3期2Q末	対22.3期2Q末増減	
流動資産	23,014	31,670	8,656	Zapi及びTrezeta新規連結（以降はZapi）+2,154
現金及び預金	6,697	6,506	▲191	
売上債権	6,362	11,305	4,943	
たな卸資産	7,552	10,575	3,023	単体在庫は+404、東南アジアでの増加、新規連結による増加
固定資産	16,287	19,707	3,420	Zapi+1,847
有形固定資産	8,443	10,020	1,577	
無形固定資産	1,835	3,607	1,772	のれん+1,462（Zapi）
投資有価証券	5,233	4,604	▲629	
資産合計	39,301	51,377	12,076	Zapi+4,001
流動負債	17,117	25,176	8,059	Zapi+1,471
買入債務	6,358	8,093	1,734	
固定負債	1,924	3,083	1,159	Zapi+742
有利子負債	2,463	9,257	6,793	
負債合計	19,041	28,260	9,218	Zapi+2,214
純資産	20,259	23,117	2,858	
資本金	3,698	3,698	0	
負債純資産合計	39,301	51,377	12,076	

日用品質 フマキラー

決算概要－キャッシュ・フロー



（単位：百万円）

	22.3期 2Q		23.3期 2Q
営業キャッシュフロー	**6,853**	→	**5,454**
税金等調整前四半期純利益	1,933	→	1,473
売上債権減少額	6,114	→	3,133
棚卸資産減少額	1,937	→	2,033
仕入債務増減額（▲は減少）	▲3,311	→	▲1,666
投資キャッシュフロー	**▲1,396**	→	**▲545**
有形固定資産の取得	▲1,344	→	▲589
財務キャッシュフロー	**▲5,371**	→	**▲5,702**
短期借入金の純増減額	▲4,809	→	▲5,010

Ⅱ．通期予想と今後の展開（2023年3月期）

日用品質 フマキラー

上期振り返りと今後の課題

23.3期2Q総括

①国内事業

- 外部環境では天候面で恵まれず殺虫剤が大幅減収
- 原材料高による原価率アップ。価格改定交渉は進捗しつつあり、4Qからの来シーズンに向けた商戦より効果を期待
- 家庭用品、園芸用品は前期並み、防疫剤・その他が着実に増収を持続

②東南アジア/イタリアの状況

- 東南アジアを中心に現地通貨ベースで順調に推移
- 円安効果は売上増への寄与は大きいものの利益面では限定的
- イタリア事業の売上・利益貢献

今後の課題

①原材料価格の高騰への対策

- 国内　2023年シーズンより一部製品の値上げ実施。生産性の効率化・集中化を継続実施
- 海外　更なる商品群への価格転嫁・追加での値上げを検討・実施

②買収企業とのシナジーの早期創出

- 伊Zapi社の株式取得、連結子会社化にともない欧州への販路開拓を強化など

日用品質
フマキラー

通期業績予想

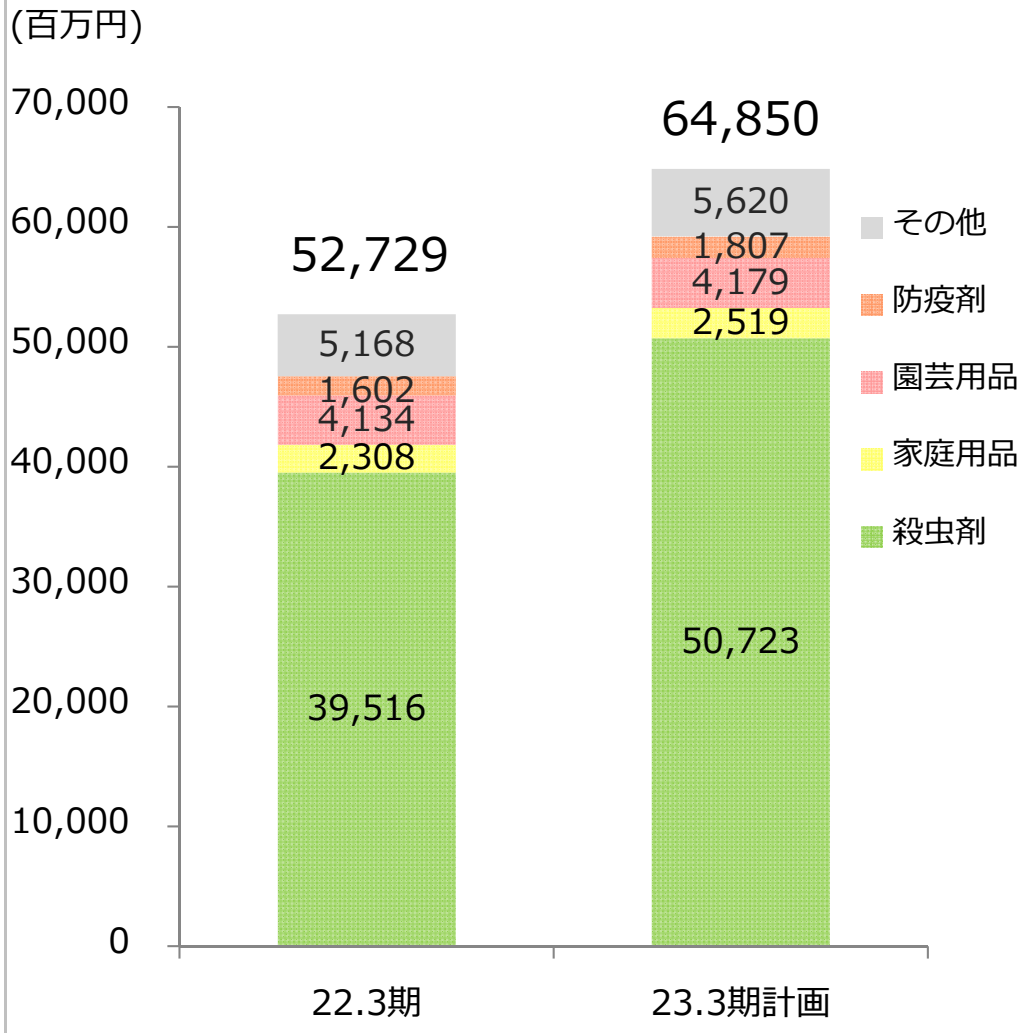
- 期初計画を修正。売上高はほぼ期初予想通りだが、利益面では、国内殺虫剤の苦戦による個別業績の悪化を受け下方修正

	22.3期実績(百万円)	23.3期期初計画(百万円)	23.3期計画(百万円)	対前期増減額(百万円)	前期比(%)
売上高	52,729	*64,800*	64,850	(+12,121)	(122.9)
売上総利益 (粗利率)	15,644 (29.7%)	*20,000* *(30.9%)*	19,848 (30.6%)	(+4,204) (+0.9pt)	(126.9)
販管費	13,481	*17,500*	17,784	(+4,303)	(131.9)
営業利益	2,183	*2,500*	2,064	(▲119)	(94.5)
経常利益	2,541	*2,930*	2,399	(▲142)	(94.4)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,391	*1,870*	961	(▲430)	(69.1)

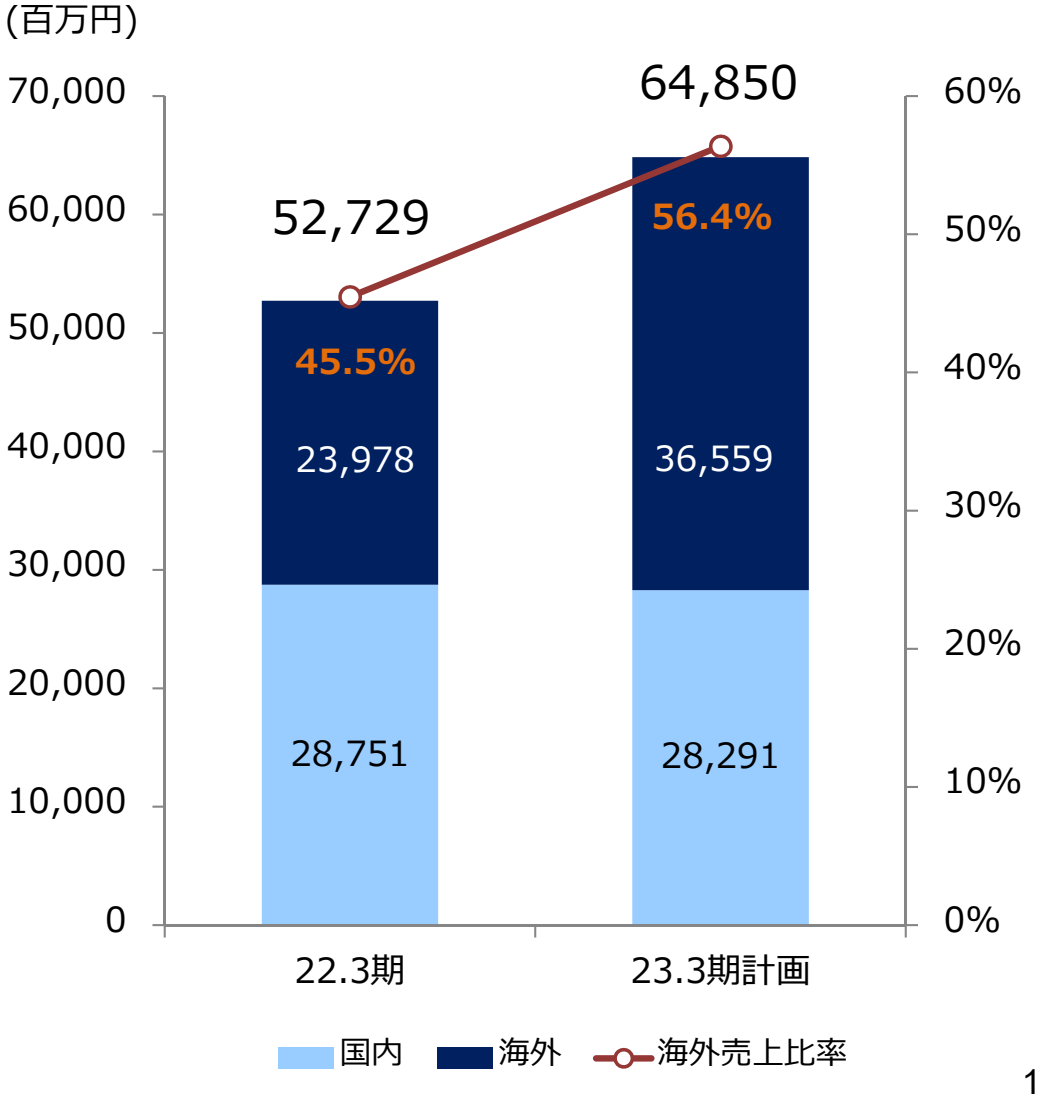
日用品質 フマキラー

今期予想－ジャンル別売上

ジャンル別売上高



国内/海外売上高



日用品質
フマキラー

今期の取り組み

項目	取り組み課題
日本のフマキラーグループの課題 (日本国内の課題)	➢ 画期的で魅力的な新商品の開発 ➢ 高品質で効率的な生産 ➢ 研究開発体制及び生産体制の強化 ➢ 販売力の強化と流通チャネルの拡大 ➢ ウイルス・細菌・アレルゲンなどのリスクへの対策商品の提案強化
海外のフマキラーグループの課題 (海外の課題)	➢ 国内と海外子会社間の連携強化とグループシナジー効果の向上 ➢ インドネシアの研究開発体制の強化 ➢ 海外事業の拡大と収益力の強化 ➢ 欧州市場における事業基盤の強化
収益力と財務状況の改善	➢ 国内外での商品アイテムの見直し ➢ 製品原価の低減(原材料価格高騰に対する対応含む) ➢ 在庫の適正化 ➢ 製品価値に基づいた適正価格での販売 ➢ 販管費の効率的運用(マーケティング費用含む)

日用品質
フマキラー®

SDGｓへの取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

命・暮らし・環境で守る、フマキラーのCSR活動。

「企業活動そのものがSDGｓ」を合言葉にプラスチック削減やモーダルシフトで環境負荷軽減を図っています。

■高効力製品の開発・販売

新型コロナウイルスに対する効果を確認

研究拠点を新たに着工

開発棟及び生産施設（広島）

開発研究棟（インドネシア）

■エコレールマーク取得

■エコキャップの採用

■ブリスターパックからシュリンクへ

■感染症についての啓発活動を実施

日経・FT感染症会議参加

■アンチデング熱キャンペーン

アジア地域を中心として展開

キャンペーンマーク

■フマキッズこども研究所

PLAY ACTIVE! コロナ禍の夏休み自由研究や子供達の活動を応援。

TEAM EXPO 2025 「TEAM EXPO2025 共創チャレンジ」に参加

■高効率熱媒ヒーターの導入

PT.FUMAKILLA NOMOS（インドネシア）

■太陽光パネル、バイオマスボイラーの導入

■食品ロスの削減

食品用除菌スプレーを通じての取り組み

食べものに、もったいないを、もういちど。 NO-FOODLOSS PROJECT

■農業女子プロジェクト

農林水産省の取り組みに参画

日用品質
フマキラー

イタリア事業

ザピ

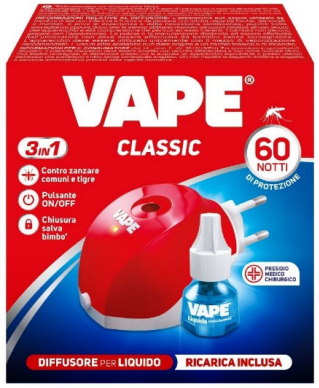
イタリアを中心に欧州で殺虫剤等の製造・販売

Zapi Garden

Protemax

フマキラーヨーロッパ

VAPEブランドをイタリア国内で販売



日用品質
フマキラー

ミャンマー工場

ミャンマー工場の稼働開始

- 2022年6月から稼働開始
- ミャンマー国内市場にエアゾール製品の出荷開始

エアゾール工場

製造開始した製品

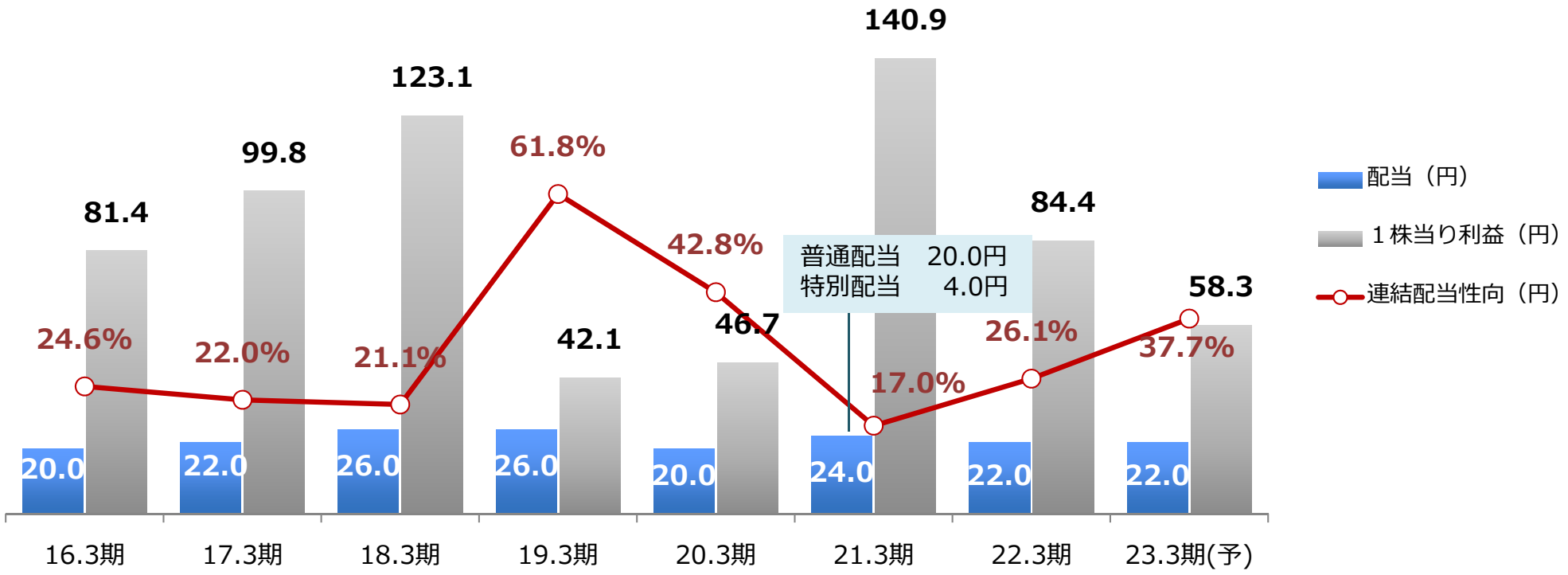
日用品質 フマキラー

配当について

配当に関する基本方針

株主様に対する利益還元として、業績・将来の事業展開や内部留保などを　総合的に勘案し、安定的かつ継続的な配当を行っていくことを経営の重要課題として位置づけています

配当及び連結配当性向の推移



※17.3期以前の1株当り利益および配当は2017年10月1日に実施した株式併合を考慮して遡及修正

日用品質

フマキラー®

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

≪本資料に関するご照会先≫

フマキラー株式会社

取締役　管理本部長　　郷原　和哉

TEL　　：0829-55-2111

FAX　　：0829-55-0712

E-mail：kazuya-gobara@fumakilla.co.jp

Ⅲ． 補足資料

日用品質 フマキラー®

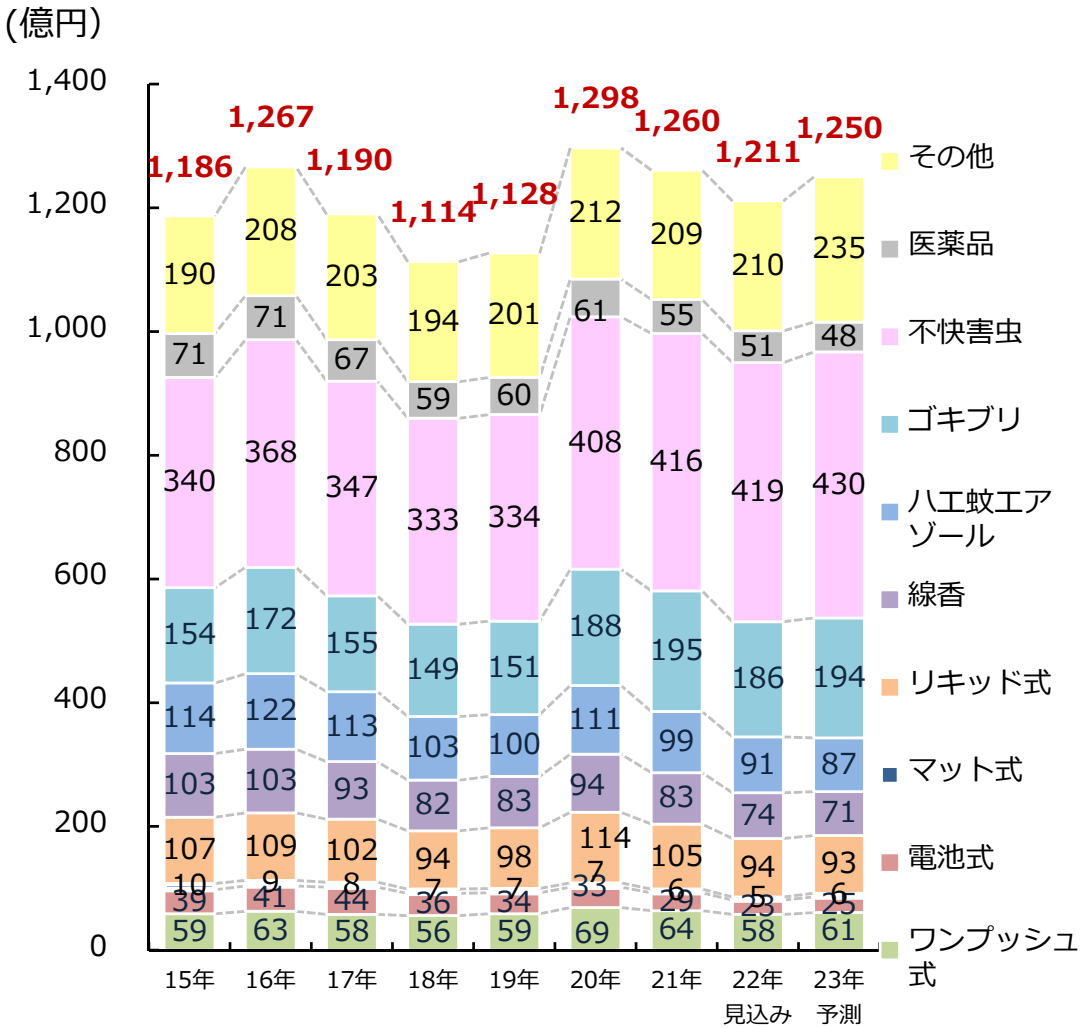
ジャンル別　売上高増減要因

ジャンル		前期比	要因
殺虫剤	国内	91.2%	➔ 最盛期の5月~6月が低気温で市場が縮小したことから大幅減
	海外	173.7%	➔ イタリア事業が新規連結となり大幅増 ➔ 東南アジア各国も現地通貨ベースで堅調 ➔ 為替の影響(円安)を受けたことから円貨が増加
家庭用品		98.3%	➔ アルコール除菌剤の反動減は一段落
園芸用品		98.2%	➔ 国内殺虫剤同様に天候条件が悪く微減
防疫剤 その他		108.9%	➔ フマキラー・トータルシステム㈱のシロアリ施工工事が引き続き好調 ➔ 防疫剤も増加
合計		122.6%	

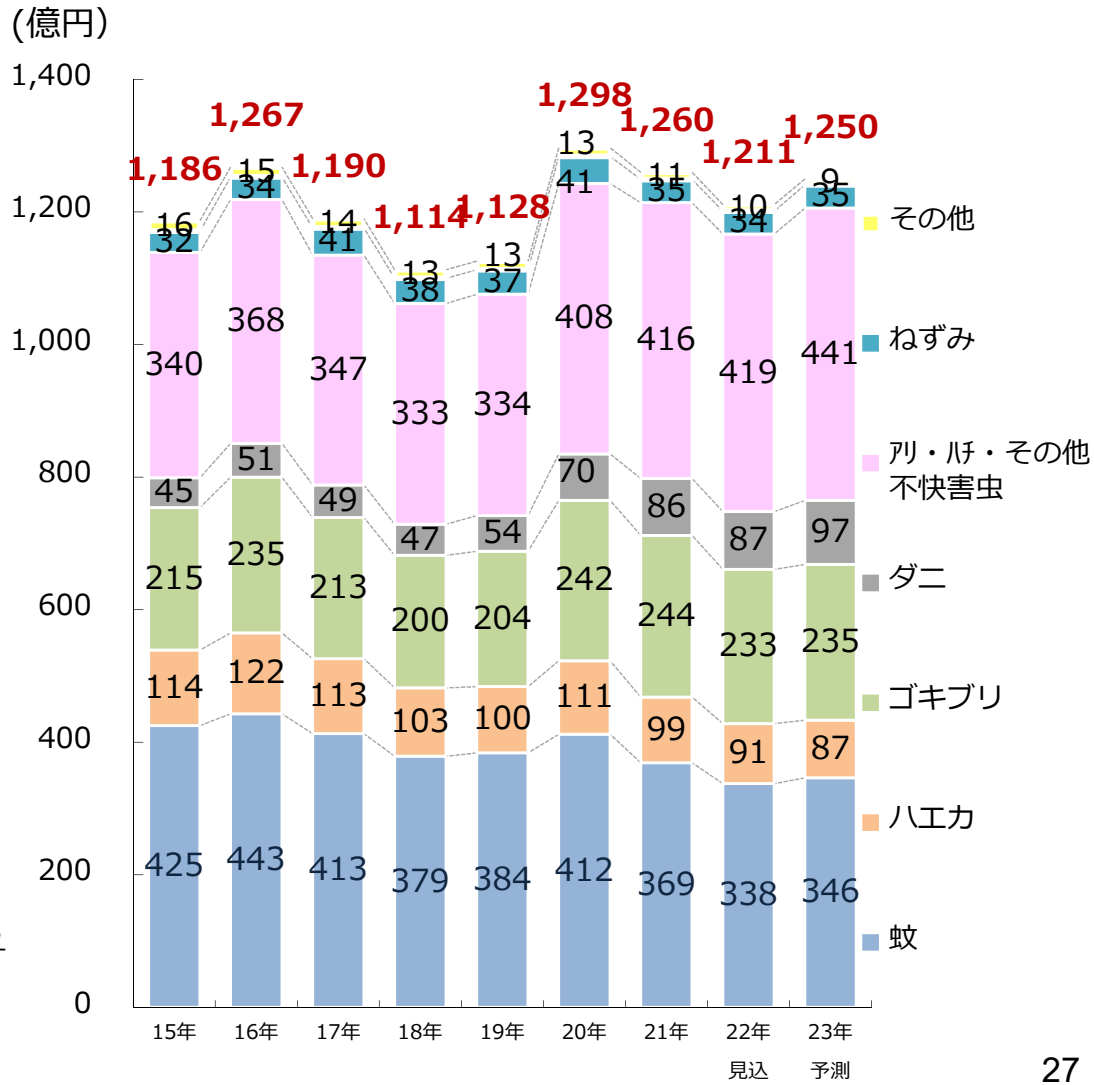
日用品質 フマキラー

家庭用殺虫剤市場規模－国内市場

国内・家庭用殺虫剤市場規模
年間約1,300億円（小売ベース）



害虫別殺虫剤市場規模



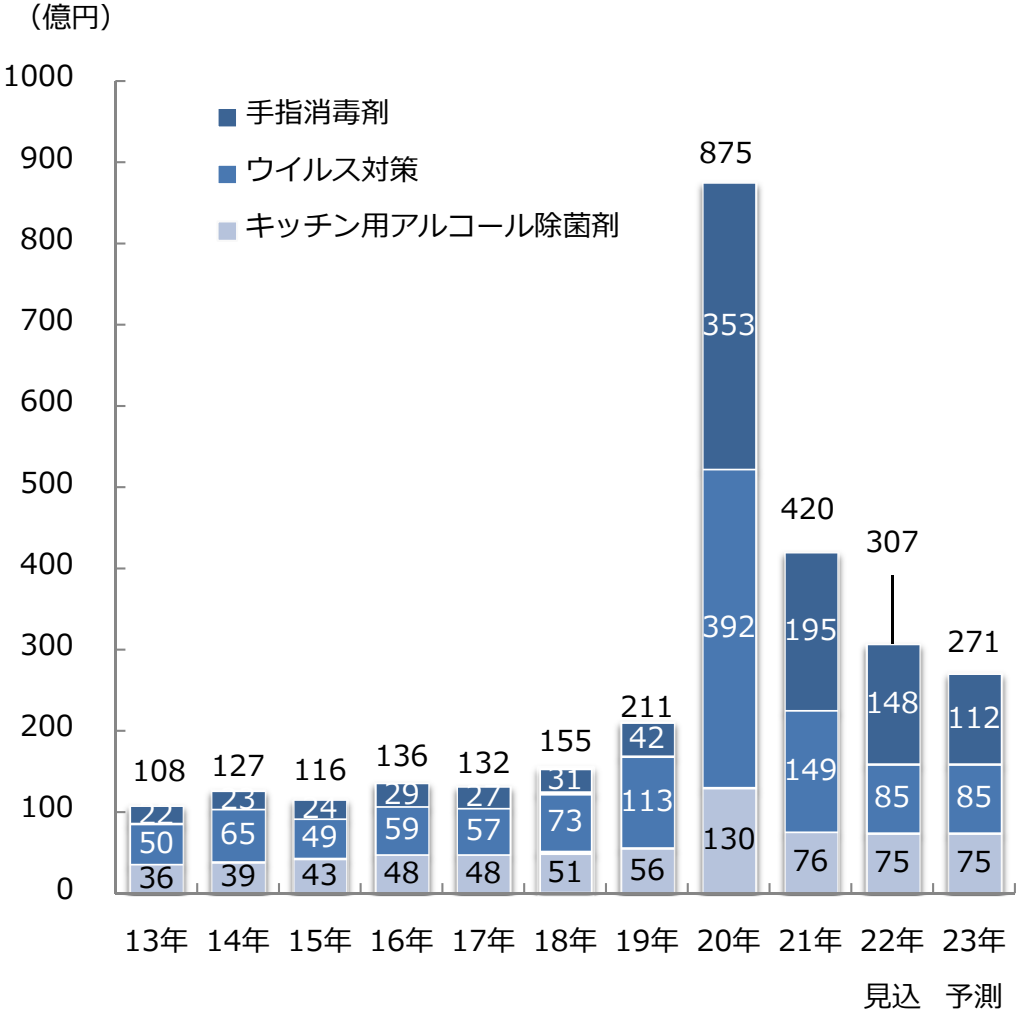
※データ出典インテージ社SRI+(2020年1月～)

日用品質 フマキラー

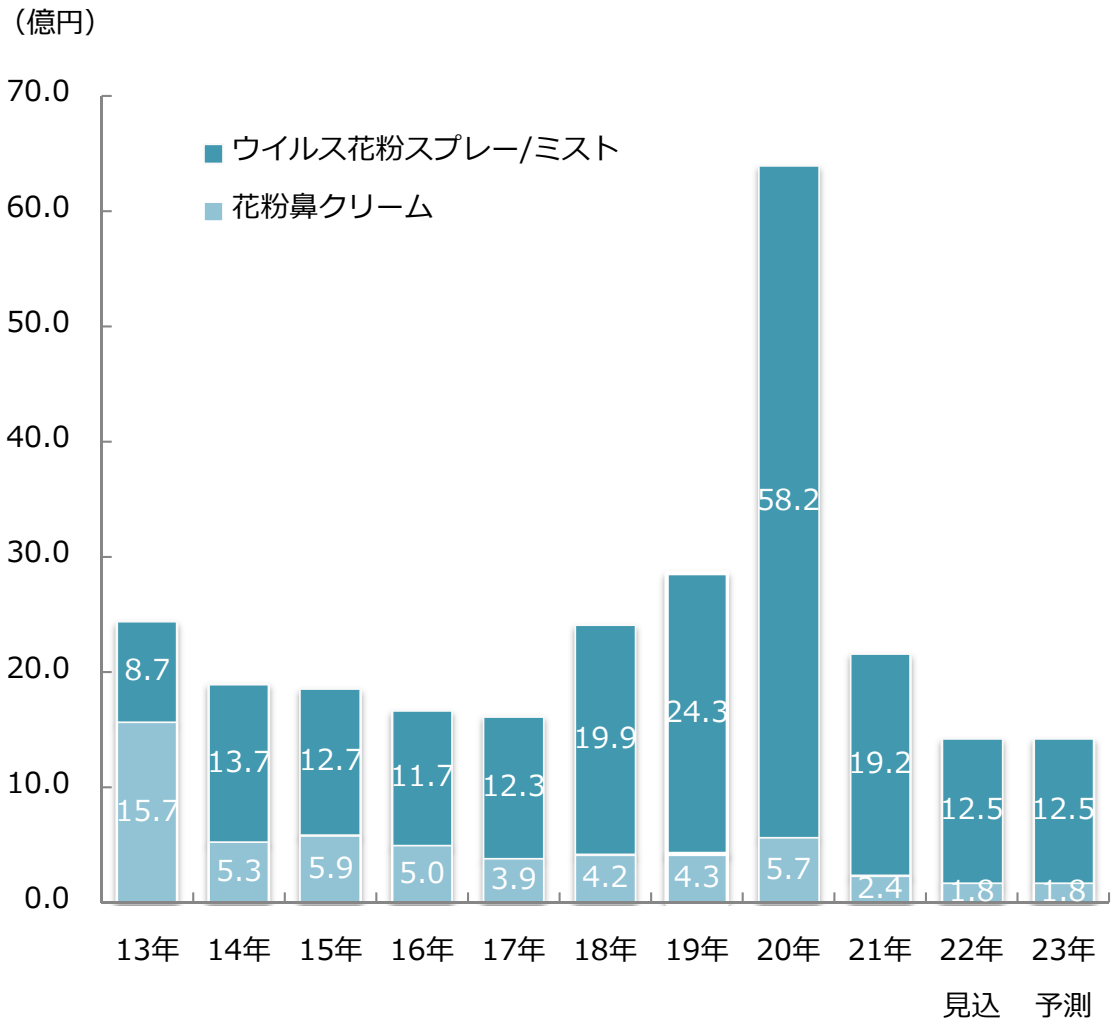
家庭用品市場規模―除菌剤・花粉

除菌剤市場

（当社関連商品）



アレルシャット関連市場

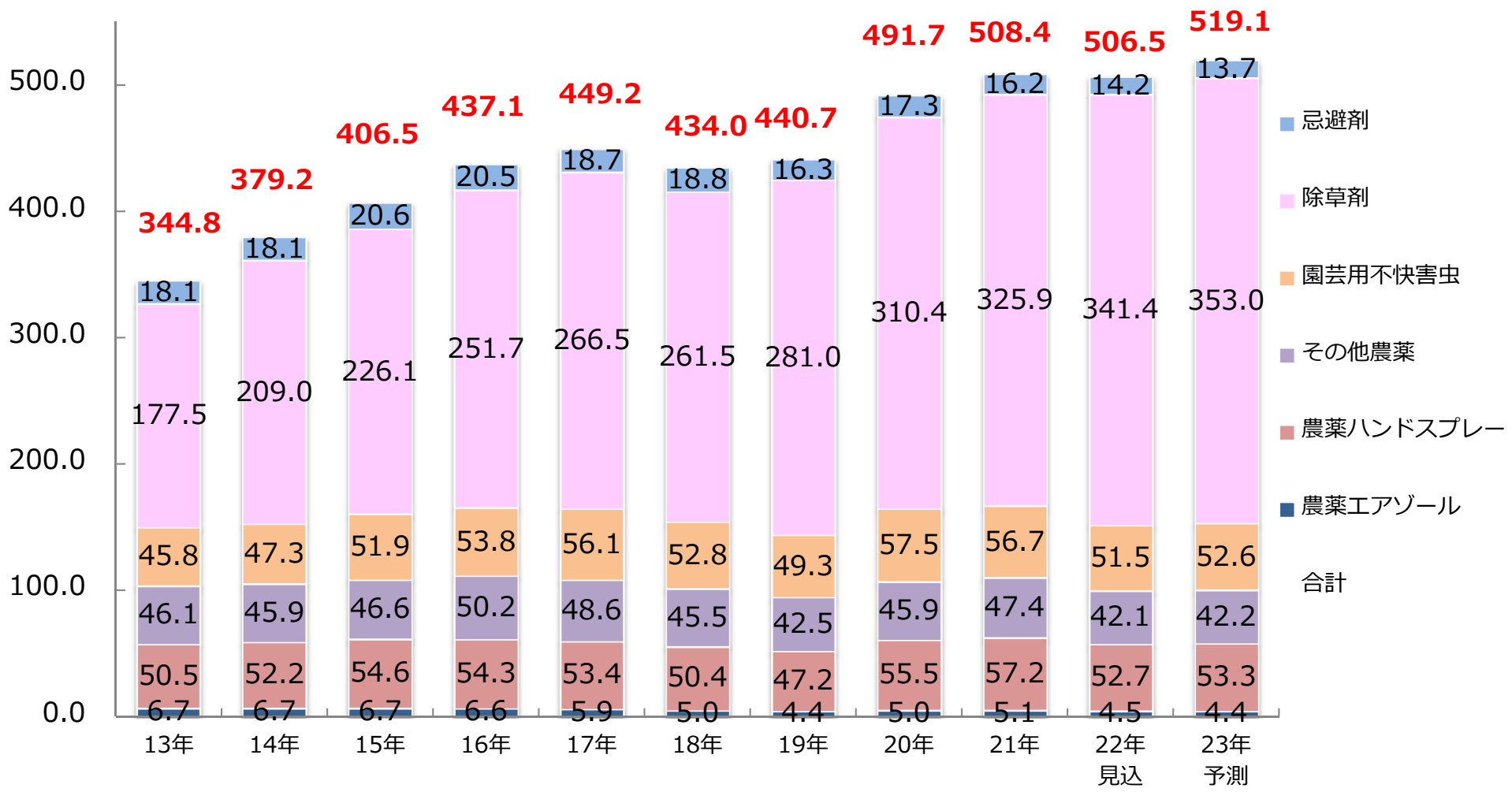


出所：当社推定（末端価格）

日用品質 フマキラー

園芸用品市場規模

園芸用品市場



出所：当社推定（末端価格）